

なきごえ

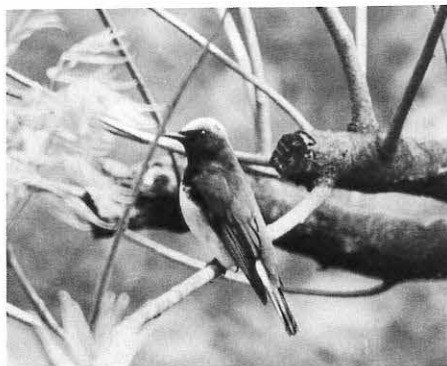


1979

9

大阪市
天王寺動物園協会

瀬戸 淳



天王寺動物園と云うと、忘れられない思い出が、すぐ浮かんできます。

小学校へ上る前の事です。たしか天王寺動物園だったと思うのですが、母に手をひかれて園内の道を歩いていました。そこへ、係員に紐でつれられたチンパンジーが自転車に乗って通りかかりました。そして私のそばへ来た時、ひょいと右手を出したのです。私もつられてすぐ右手を出しました。すると彼女は私の手を軽く掴んで手早く上下に振りました。私は、その頃人気者だった「リタ嬢」と云うチンパンジーと握手をしたのでした。周囲の大人達は、びっくりして見ていましたが、私はほのぼのとした満足感で一杯でした。人見知りのひどい私が、この握手には何の抵抗も感じませんでしたから、生まれつき動物が好きだったようです。

遠出の許されなかった私は、近くで手に入る生き物を手当り次第に飼い、毎日毎日、そばでじっと見ていました。どうしてあんなに飼いたかったのか自分でも分かりませんし、やはり身近かに自然が欲しかったのでしょうか。

犬、猫は勿論、ウサギ、ニワトリ、スズメ、ヒバリ、カエル、カメレオン、ドジョウ、フナ、キンギョ、コイ、タナゴ、モロコ、メダカ、カワニナ、タニシ、シジミ、カラスガイ、モノアラガイ、ミズカマキリ、ヤゴ、ミジンコ、コオロギ、キリギリス、カブトムシ、アリ、アリジゴク、カイコ、アオムシその他、まだあったと思います。

この中で不思議だったのは、1羽のめんどりです。4、5才だったと思いますが、あまり卵を産まなく

なって来た頃、おんどりがイタチにやられたのです。小屋の中は、めんどりばかり、7、8羽になりました。すると、この1羽のめんどりは、蹴爪がどんどん伸びてきて、雄のようになり、「コケッコー」と、時をつくるのです。そして又、雄をもらって来て小屋へ入れると蹴爪はどんどん短くなり、卵まで産むようになるのです。こんな事が2度程ありましたが、話をする相手もないまま、忘れていました。後に結婚した時思い出して、夫に話したら、「飼い主にそっくりやないか」と申しました。

飼い物に夢中になっていた頃出会った1冊の本が中西悟堂さんの「野鳥記」です。これは兄の中学の博物の先生の推薦で、兄の本棚にあった物です。野鳥など殆んど知らなかった私は、この中に出て来る鳥達が、どんな姿で、どこにいるのかも知らないまま、それでも夢中になって繰り返し繰り返し、本がぼろぼろになる迄読みました。そして鳴き声などは片仮名の表現を、自分なりに節をつけて、大抵、暗記していましたから、後にラジオの録音を聞いた時には殆んど分りました。ラジオが野鳥の声を放送するようになると、いつもしがみついて聞きました。しかし、当時の技術では、トラツグミのヒー、ヒョー、の高い方の音と、ミソサザイの声とは録音できなかったもので、はじめての探鳥会に比叡山でトラツグミの声を聞いた時には、涙が出る程感激し、「もう死んでもいい」などと云って、「安い命やなー」と先輩達に笑われました。

それからのトリキチぶりは、ただならぬものがあったせいか、親もあきらめたらしく、年に2、3回は探鳥会にも参加できるようになりました。結婚当時は、枚方に住んだので鳥に恵まれ、来る日も、来る日も時間があれば周囲を歩き廻り、つぶさに鳥を眺めては喜びに浸っていました。奈良に住んだ今も、それが続いている次第です。遠出のできない主婦にとって、春秋の渡りの時期はいながらにして、北の鳥、南の鳥、時には意外な珍鳥が見られる夢のような季節です。鳥が渡れば私も近距離の渡りに忙しく、年を忘れて暮らしております。(日本野鳥の会会員) (写真は'77.4.21.に大阪城公園で写したオオルリの♂です)

なきごえ9月号もくじ

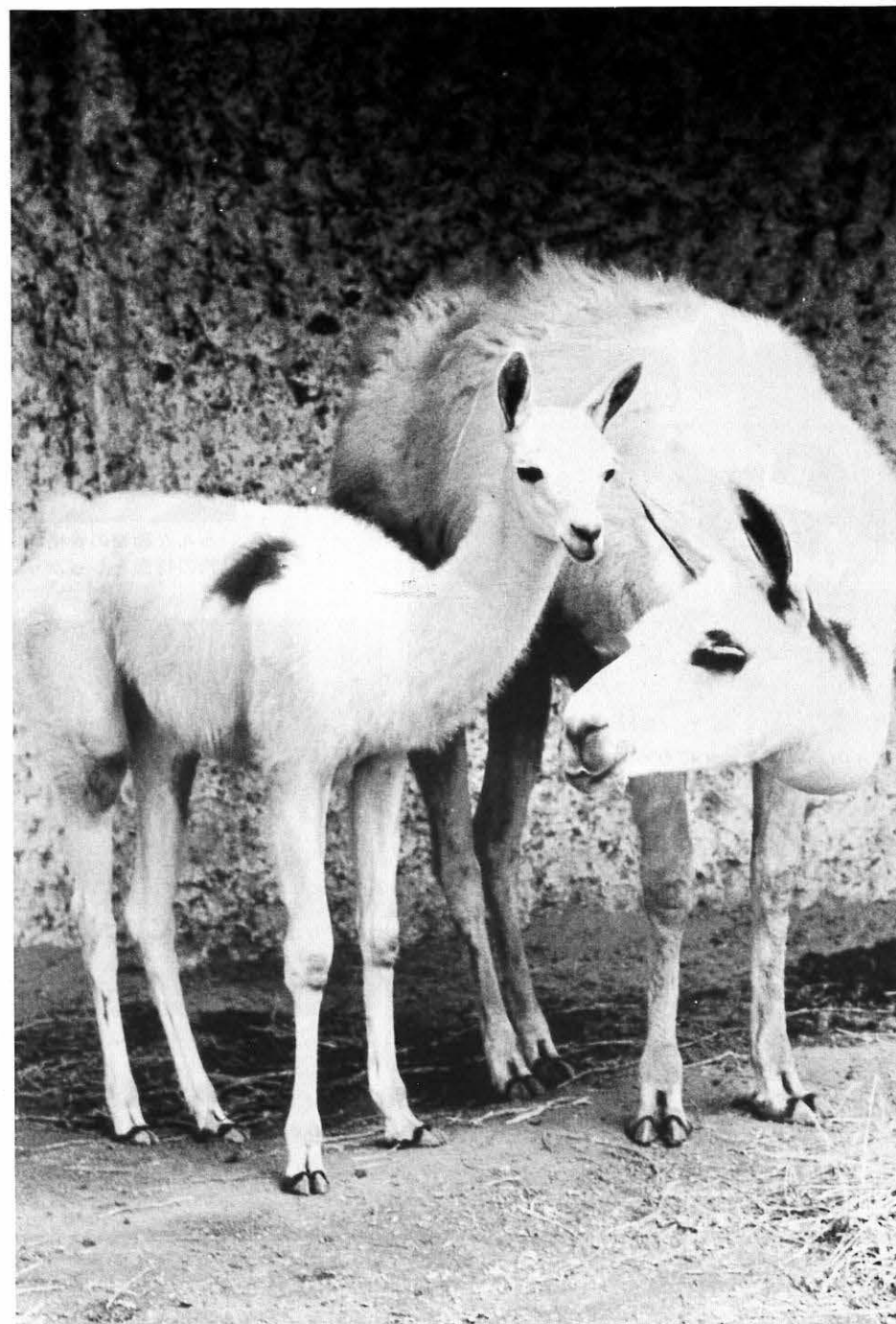
動物と私	2
“ラマの親仔”	3
動物園グラフ “サマースクール特集”	4・5
サマースクール感想記	6・7
アメリカ西海岸・動物園めぐりの旅 II	8・9
獣医室から No.22	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“ヤブツカツクリ”

メルボルン動物園から贈られてきたこの鳥はその名のとおり、高さ1m以上の塚を築きあげてその中に産卵する珍しいキジの仲間です。

(撮影：大野 尊信)



“ラマの親仔”

6月21日に誕生したラマの赤ちゃん(メス)は、母親のマリーが初産の上、2才にもならない若いママなので心配されましたが、その後の発育経過は良好です。

(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

「サマースクール特集」

7月22日～8月1日まで、小学校4～6年生 240名を対象とした第5回サマースクールが開講されました。今回はそのサマースクールの内容の一部を御紹介します。(撮影：宮下 実・前木 妙子)



たくさんの鳥の卵を見せてもらいました。さすが、ダチョウは大きい!



園内の動物をじっくりと観察します。



いろんな動物の骨格標本をみせてもらって動物の特徴をしっかりと学びました。



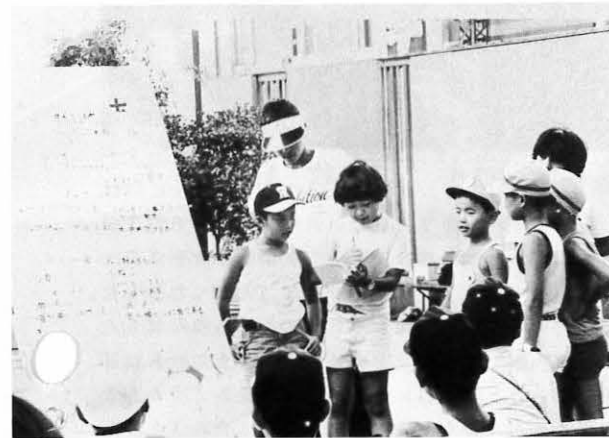
自然史博物館では、動物の骨格について勉強しました。



もうヘビもこわくありません。



4班はクマについていろいろ調べました。



いよいよ研究発表です。



修了証をもらいました。暑い中を3日間ごろうさまでした。

7・8月の動物園日記

- 7/23. ホッキョクグマに氷をプレゼントしました。
 25. カニクイマングースの右下顎はすっかり腫れがひいたので、退院させました。ゾウの検便の結果、円虫が検出されたので駆虫薬を飲ませました。
 26. 人工哺育中のダマシカは下痢が続いていたのですが、整腸剤のおかげで良便になりました。
 27. 1ヶ月前に生まれたトラの赤ちゃん4頭は、親に食べられてしまう恐れがあるので、人

工哺育に切り替えました。

30. パカのメスが1頭入園しました。ジャングルキャットが3頭の赤ちゃんを出産しました。
 31. ビューマの仔の右耳下が腫れているので、穿刺して治療しました。ダマシカの赤ちゃんは、後肢の具合が悪いので、ギプス固定をしました。昨日生まれのジャングルキャットは、親が面倒をみないため1頭死亡したので、残りの2頭を人工哺育にしました。
 8/1. 第5回サマースクールが本日で終了。

- チョウセンハゲワシが死亡しました。出血性腸炎で衰弱しているところを、コンドルに水の中で押さえこまれての溺死でした。
 2. 人工哺育中のジャングルキャットの仔が死亡しました。リスザルの赤ちゃんが誕生しました。
 8. メスのアシカの左肩甲上部に裂傷がみられるので、捕獲して消毒、縫合を行ないました。
 12. ダチョウが1羽、元気がないので投薬を続けています。
 14. ライオンの仔3頭とトラの仔4頭が出園し

- ました。
 18. シマウマに回虫の駆虫薬を飲ませました。
 19. レアの卵がフ化しました。フ化日数は42日でした。
 20. パカ2頭を同居させたところ、闘争のため新入りのメスが腰背部に裂傷を負ったのでさっそく治療しました。
 21. 昨晚生まれたスプリングボックの赤ちゃんが打撲のため腹腔内出血で死亡しました。
 22. マレージャコウネコの尾尖部が化膿してきたため、断尾を行ないました。

第5回サマースクール生徒感想文

第5回サマースクールも無事終了しました。今年も多くの子供たちから感想文が届いています。その中から数編を御紹介したいと思います。

桑津小学校 4年 小林 勲

ぼくは、今年初めてサマースクールに参加しました。初めはどんなことをやるのか楽しみでしたが、少し不安もありました。初めの日には、どんな人がきて教えてくれるのかなあとか、友達ができるのかなあとドキドキしました。

ぼくの班は9班で、ワシ、タカ、キジのなかまを調べることになりました。ぼくはふつう鳥は空をとんでいるから、こんなことを調べるのはむづかしいと思いました。鳥はびんかんなので調べられるかしらばいしました。

2日目は、研究会があるのでどんなことを発表するのかあとと思いました。ぼくたちは、ワライカワセミのことと、ワシとハゲワシのちがいについて研究会で発表しました。少しきんちょうしましたが、なかなかうまくいったと思いました。

3日目は、長居の自然史博物館で勉強しました。博物館では、動物のほねや人間のほねを見ました。しゅう会室では、アホウドリ、アオゲラ、ペンギンのはくせいをさわったりしました。最後にこうどうでしゅうりょう証をもらいました。

この3日間で、知らなかったことを教えてもらい、よい勉強になりました。また来年も参加できたらいいなあとと思います。

西牧野小学校 4年 小泉 卓也

ぼくは、あまり動物のことを、くわしく知らないからさんかしました。

一日目は、カンガルーのスケッチをしました。二日目は、はちゅう類のところ、へびをさわりました。足がなくなったあとが、二つありました。

三日目は、しぜんしはくぶつ館でいろんなものを見ました。いちばんおどろいたのは、リュウグウノツカイで5mもありました。そしてカンガルーのほねをスケッチして、できたので先生に見せました。

さいごは、ひょうしょうしきで、修了証をもらいました。

カンガルーの赤ちゃんの生まれたときは、2cmで1.5gということがわかってよかった。とてもたのしい三日間でした。

関目東小学校 5年 木村 博昭

サマースクールに行ってもよかったと思う。ゾウやカバ、バク、サイ、ブタの特長や食べ物が、よくわ

かるからです。ゾウは近くで見る方が、遠くから見るより大きくみえたり、はく力があるようにもみえた。ゾウやカバの寝室やブタのそばにいとくさかった。それから動物は頭がいいということは、少しびっくりした。サイが戸をあけしめしたりするという話を聞いたときもびっくりした。そのとき、サイは力があるなと思いました。それから自然史博物館でサイの下あごのほねをもったとき、とても重かった。頭の方は、すごく重かったので持てませんでした。それから、クジラのほねはもっと大きいと思ったけれど、わりと小さかった。でも、あとで考えるとぼくの考えていたのは、シロナガスクジラみたいに大きいものだった。動物のことをもっと知りたいと思うから、来年も来ようと思う。



苗代小学校 5年 牧野 祐子

私は、昭和54年7月30日(月曜日)から8月1日(水曜日)の間の第5回天王寺動物園サマースクールに参加できるように、母が申しこんでくれました。

この申しこみは、母が私に何の相談もなしにしたので「当選しました」というのがきききて、私は初めて知ったし、それにまだおもしろいのかもわからなかったから、けんかになりました。

私は参加者が男の子ばかりではないかというよかんがしていましたが、やはりその通りでした。最初の日、会場でそれを知った時とてもいやでした。それはなぜかという、話し相手がないからです。おべんとうを食べる時など特にさみしかったです。でもボランティアの人には、お姉さんがいて私が一人でもかわいそうに思ったのか、一人のお姉さんに「ずっと牧野さんについてあげてね、女の子は一人だからかわいそうでしょ」と言ってくれました。それを聞いて私はほんとうにうれしかった。

初めは、南園のゾウを見ました。ふつうの時だったら、さっと見て行ってしまいます。でもサマース

クールでは、し育係のおじさん達に説明をしてもらいますから、ひづめの数は何本、どんな物を食べるどんな生活をしているなどがよくわかります。

そして私が、一番気に入ったのはビューマの赤ちゃんを見たことです。動物の赤ちゃんとおじさんがいっしょにいる所なんて初めて見ました。赤ちゃんは、目を細くして私達の方をじっと見ていました。それがなんともいえないほどかわいいのです。見られない人は、外からうらやましそうな顔をして、見ていたのでとてもかわいそうになりました。

そして私は感げきしたことがあります。それは今までだったら、動物園に行っても見るだけだったのでつまらなかったけど、ここではバクをさわらせてもらったのです。し育係のおじさんは、ただバクの皮ふはかたいよと言っただけだったのでわからなかったけど、さわったしゅんかん私の思っていたかたさとぜんぜんちがうなと思いました。私はもうちょっとやわらかいと思っていたけど、実際はゆかにひいたじゅうたんのようなかたさだと私は思います。それからし育係のおじさんからお話がありました。「バクという動物は、とても皮ふがかたい。トラのつめも入らないくらいだ。たとえ、入ったとしてもひくい木の所を走ってふりおとすんだよ」と教えてくれました。

私は、このサマースクールに来て、物を見おとさずに見ることができてきたようです。とってもうれしく思っています。それでもまだまだのようです。それは自分の好きな物などは熱心に見るけれど、きらいな物だとちゃんと見ないからです。そういう所は、どんな事があってもなおさなければならぬと思っています。

初めの時はいやだいやだとくやんでいただけ、おじさん達などの説明を聞いている間に男の子のこともなんか気にならなくなってだんだん楽しくなってきました。来年も男の子ばかりでもいいから、また参加したいと思います。最後に、動物園の方々、し育係のおじさんたち、ボランティアのお姉さん、お兄さん、先生方たいへんなおせわをいろいろして下さってありがとうございました。

太子橋小学校 6年 岡根 直美

7月26・27・28日から、第五回めのサマースクールが、はじまった。わたしは、去年もいったので、だいたいわかっていましたが、前は、2班で今年は3班だったので少しちがうことをならったのでまたおもしろかった。

たったの3日間だったけど飼育係の人や、獣医さ

ん、ボランティアの人たちみんなが、くわしく、おしえてくれたので、去年よりも、よくわかったようだ。

それに、わたしが、思っていたこととは、ちがうことが1つありました。それは、わたしは、初めはオオカミは、夜行性と思っていたけども、ボランティアの人に聞いて見ると、「オオカミというのは、まるっきり、夜行性じゃないよ」とおしえてくれました。

3日目は、長居公園でした。長居公園の人も、やさしくしてくれました。

たとえば、「この骨は、ほんもので、この骨は、つくったものです」などいろいろと一番最初に説明してくれました。わたしは、ほんとに、サマースクールに行けてよかったと思います。

抽選であたらなかった人のためにもがんばったと、自分では、思っています。



日東小学校 6年 戎 由里子

私はサマースクールに参加するのは、初めてなのでどんなことをするのかなどいろいろ考えました。サマースクールでのことは、私にとっていい思い出になりました。たった3日間で友だちもできた。

今までに動物園に何回か行きました。でも、ただ見るだけで楽しむのがいつもです。しかし、サマースクールで勉強した、いろいろなこと(動作、もよう、特長、えき)などを知り、テレビなどにでてきて知っている動物について家族にいろいろ話しました。

最後の日の自然史博物館では、人間の骨とくらべたら、たいいていところがちがっています。

夏休みも、このようにちがう学校の人や初対面の人といっしょに3日間楽しく勉強できて、とてもうれしかったです。

また今度、動物園へ行くきかいがあったら、きっとネコ科について何回も勉強したことを思い出してほしい。

アメリカ西海岸・動物園めぐりの旅 II

ロスアンジェルス → サンディエゴ

6月18日に私はあこがれのサンディエゴ動物園に行きました。最初の予定では飛行機で行く予定だったのですが、航空券の予約が満席だったので、グレイハウンドバスでサンディエゴに行く事にしました。ロスアンジェルスダウンタウンにあるチケットカウンターでキップを買いバスに乗りこみました。途中バスの中から見える景色はすばらしいもので、所要時間の2時間もあっという間に過ぎてしまいました。そしてサンディエゴ市からイエローキャブでサンディエゴ動物園の正門まで5分、ついにあこがれのサンディエゴ動物園に来たぞ! という実感が胸にこみあげてきました。今日は日曜日という事もあって、正門前には大勢の人達が並んでいました。私は正門横のインフォメーションの所で日本から来た飼



ついに来たぞ! あこがれのサンディエゴZOOへ。ニコリと記念写真

育係である事を伝えると、すぐ案内係の人が来て下さり、私を事務所につれていってくれました。そこで私は日本から当園の長瀬獣医に紹介状を出してもらったキーパーのMark Rich氏に会いたいという、彼は休日をとっているとの事でした。でも事務所の職員の方がいろいろと配慮してくださり、他のキーパーの人を呼んでくれました。その方の案内で私はまず園内を遊覧しているバスのステーションの事務所に行き、ここから1人でバスに乗って園内を見学する様にといわれました。バスに乗りこむと、女性のドライバー兼ツアーガイドがニコリと出向かえてくれました。私は彼女に園内を1周するのに何時間かかるかとたずねると、約40分位かかるとの事でした。そしてバスは動き始めバスステーションの所で、長い行列をつくって待っていた入園者を乗せ園内へと出発しました。

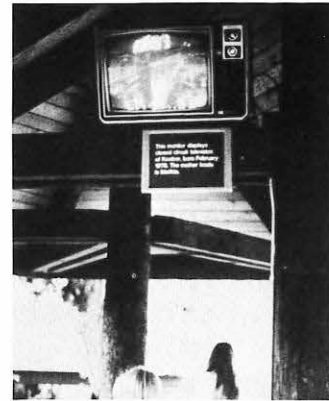
§ 楽しいバスツアーガイド

バスはまず正門を入ったすぐ前のフラミング池を通りすぎ、うっそうと茂る木立の中にあるシタツンガ、ブッシュバックのいる所に行きました。この動物舎はとてもすばらしく、滝がありそこからずと川が流れていて、シタツンガなどが生息している

環境を造りだしています。又、動物も見やすい様にしてあります。バスは主だった動物舎の前で停車し、動物の説明をしています。熊舎の前ではブラウンベアーとツアーガイドの人の楽しいやりとりがあり、車内はなんともいえない程ハッピーな雰囲気につつまれていました。私はここでも例のごとく、8%とカメラ2台で動物を写しまくりました。バスツアーも終りに近づき、コアラ舎へとバスは向かいました。しかし残念な事にコアラは天気が悪い(サンディエゴではこんな日はたいへん珍しいそうです)運動場にはいませんでした。バスを降りた私は事務所にもどりました。そこでさき程のキーパーの人が私を待っていてくれました。そして彼の紹介でバードセクションのキーパーの方が私を案内して下さる事になりました。彼は私に何を飼育しているかと質問したので、私は小型哺乳動物と猛禽類を飼育していると答えると、「じゃあ、まずワシ舎に行きましょう」と私をワシ舎につれていってくれました。ここのワシ舎ではゴマバラワシ、ハクトウワシ、コンドル等が飼育されていました。ケージの中には木がうっそうと茂っており、密林を想わせる動物舎でした。ゴマバラワシのいる所で私がカメラを構えて写そうとすると、飼育係の人が「私の後についてきなさい」とワシ舎の裏にある出入口めざして急な斜面を駆け登っていきま



世界三強ワシの1つのゴマバラワシが切れ切れのなか私たちはワシ舎の中に入っていました。そして忍び足でゴマバラワシに近づいて、ゆっくりと写真を撮る事ができました。その後、インコ舎、サイチ



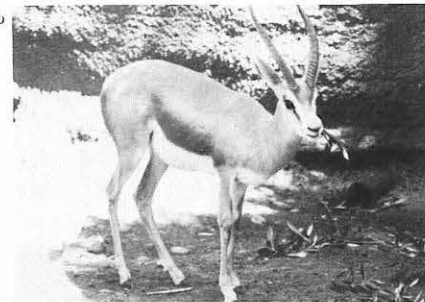
寢室にいるコアラを見るため設置されているカラーテレビ

ました。あまりの身軽さで急な坂を登っていき、彼の後を追い越していきま

ウ舎、ハミングバード舎と見学して行きました。ハミングバード舎では、目の前をハチドリが、すごいスピードでとびまわって私を歓迎してくれている様でした。このハミングバード舎で感心した事は、ハチドリを見ている人達のマナーの良い事でした。

鳥たちを驚かせない様にと、みんな足音をたてない様に通路を歩くのです。又、熱心な鳥たちは自分の指にハミングバードをとまらせようと、根気よく宙に指をかざしていました。私がおさめ様とカメラを構えてシャッターを切ろうとすると、その人はじゃまをするなどという様なジェスチャーで私の方を向きました。このハミングバード舎は1日中いてもあきない程すばらしい所でした。園内にあるゴールデンイーグルレストランでおいしい料理を食べた後、私は再び園内を見学しました。その途中、この園のジェネラルマネージャーのSwanson氏が私に会いたいとの連絡があり、私達はSwanson氏のオフィスに行きました。そこで話をしているうち、明日私がサンディエゴ動物園の姉妹園であるワイルド・アニマル・パークに行く事を話すと、特別優待券なるものを下さいました。

Swanson氏と別れた後、再び見学へと園内にもどりました。ロスアンジェルス動物園も有蹄獣の繁殖には力を入れていましたが、このサンディエゴ動物園でも



絶滅が心配されているリムガゼル

アラビアオリックス・リムガゼル・ボンテボック・アダックス・ボンゴ・ジャコウウシ・アノアなどの稀



角の立派なアダックス

少なな有蹄獣がすばらしい環境の中で飼育されています。最後に私を案内して下さったキーパーの人がキーウィをさわら

せてあげるといったので喜んで彼の後について行き、4羽飼育されているキーウィ全部をさわってご機嫌な気分での動物園を後にしました。

§ バスに乗り遅れ再びサンディエゴ動物園へ

6月19日、今日のサンディエゴは昨日とは違って変って朝からぬける様な青空が広がっていました。これぞまさしくカリフォルニア晴れ! 心も軽くイーグルスの“ホテルカリフォルニア”など歌いながらサンディエゴ動物園へと向かいました。そしてここから出発するワイルド・アニマル・パーク行きのツアーバスに乗る予定だったのですが、バスは出ていった後でした。しかたなくイエローキャブで行こうかと運転手に、いくらで行けるかと聞くと20ドル位との答えが返ってきました。往復で40ドル、ちょっと財政的にきびしすぎるので、もう1度サンディエゴ動物園を見る事にしました。天気が良いので昨日とは異った感じがする動物園の中に入っていました。陽気なピグミーチンパンジーのゆかいな行動を見たり、アードウルフ・カタジロベッカー・ゴクラクチョウ等々……健脚にものをいわせ、広い園内を精力的に歩きまわりました。このサンディエゴ動物園はもともと砂ぼくだった所にまずスプリングラーを設置し、それからアフリカ、アジア、オーストラリアなどの樹木を植え、そして動物を飼育するという広大な計画で造られた動物園なのです。今、この動物園を歩いていてここが砂ぼくだったなんてとても信じられませんでした。あらためてアメリカ人のスケールの大きさに私は感心しました。1日がこんなにも短かく思える程、すばらしいサンディエゴ動物園での見学も終りに近づき出口に向かう途中、昨日は曇っていたため運動場に出たコアラが、運動場に



天気の良い日は運動場で展示されているコアラが出ていました。なごりおいしい気持ちをおさえつつ、一路ロスアンジェルスホテルへとバスに乗りました。(つづく)

(次回はサンフランシスコ動物園)

(飼育課: 農本 武志)

獣医室から 22

オスかな?.....それともメス??

動物園において動物を飼育・展示していくことは一つの基本ですが、それらの動物をいかにして繁殖させるかということも大切なことです。それには飼育環境を整えてやることはもちろんですが、似合いのカップルを作るということも必要です。そのためにはオス・メスの判別がまず必要になるわけですが、動物によっては外見上オス・メスの分りにくいものもあります。哺乳類の場合、生殖器、二次性徴などからオス・メスの判別は容易ですが、一部判別のむずかしい動物もあります。

鳥類では外見の色彩がオスとメスでは全く異なる場合は判別しやすいのですが、全部がそういうわけでもありません。ハ虫類はオス・メス全く同型のものも多く、外見上の判別は非常にむずかしいといえるでしょう。今回の「獣医室から」は、この鳥類のオス・メスの見分け方について話をしてみましょう。

① 外見上、オス・メスの色彩の異なるもの

一番目につきやすいのはキジの仲間です。この仲間はオスは色彩に富んだ羽色をしており、メスは茶褐色の地味な色をしているものが多いのです。オスが赤、青、黄、緑などの彩かな羽色をしているのはメスをひきつけるためのディスプレイにかかせませんし、メスの地味な羽色は地面で抱卵する際の保護色として必要です。しかしキジの仲間でもカケイのように同色のものもあり、又、グアンの類も見分けがつきにくいようです。カモの仲間もオシドリやマガモのようにオスとメスで色彩の明かに異なるものが多いようです。私がカモの仲間 128種を調べたところでは、オス・メス異色のもの69種、一部異色異型のもの21種、同色同型のもの38種で、半数以上のカモの種類は色彩だけで判別できそうです。



オス、メス色彩の異なるオシドリ

スズメ目（日本産 138種）では半数以上が同色で、全く異色のものはイスクアやインソビヨドリ、オオルリなど40種ほどです。インコの仲間も同色のものも多く、異色のものはオオハナインコやビセイインコなどがあります。その他ダチョウ、キツツキの仲間などがオス・メスの色彩の異なる鳥類です。

② 色彩、形など一部異なるもの

眼の虹彩の色でオス・メスの区別ができるものがあります。体の大きさ、羽色は全く同じなのですが、例えばインコの仲間のキバタンやコバタンはオスは黒色でメスは赤茶色をしており、オオサイチョウはメスは白黄色、オスは赤茶色、クロクビコウではオスは茶褐色、メスは黄色、アンデスコンドルの場合はオスのトサカでも分りますが、虹彩もオスは薄茶色、メスは赤茶色といった具合です。

その他、首に黒いリングがある（アカツクシガモのオス）とか、あごにヒゲ状の羽毛がある（ノガンのオス）、胸、のどに茶色の帯がある（ヤマセミのオ

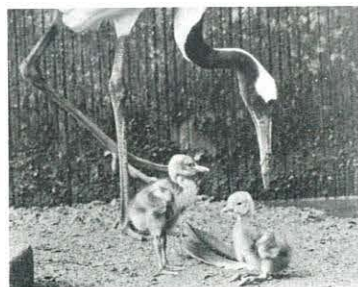
ス）など、一見、雌雄の判別がつきにくいようでもどこかに区別のポイントがある鳥の場合の我々も頭を悩まさずに大助かりです。二次性徴も判別の一つのポイントで、ニワトリのトサカなどはその代表といえるでしょう。

③ 同色、同型のもの

ペンギン、ツル、フラミンゴ、コウノトリ、ペリカン、ワシ、フクロウ……こういった仲間は雌雄の区別点がなく我々を常に悩ませます。しかし完全でないにしても判別方法はいろいろあります。例えば多少の体格のちがい、肢の各部の長さ、嘴の大きさ……これは比べる個体や記録があればよいのですが、なければ全く比較のしようもなく、又、個体の老若、栄養状態によっても差がでるため完全とは言いきれません。次に鳴声による区別、例えばツルでは鳴きかわす際、オスは一声、メスは二声、ワシミミズクではオスはボポー、メスはウーと鳴くので区別できますが、これも鳴かなければだめですし、コウノトリのように鳴けない鳥もいるため完全ではありません。現在、このような鳥類の完全な雌雄鑑別法としては染色体検査が最良です。これですと性染色体によって判別するため確実です。その他、少々乱暴な方法として鳥の腰の一部を切開して腹腔内の精巣、卵巣を直接見る方法もあります。

当園でも性別判別は染色体検査に頼っており、例えばタンチョウでは3年前に生まれたものはメス、一昨年生まれはオス、オス、昨年生まれはメス、メスと判別できました。今年生まれの2羽はまだ検査していませんが、担当の係員は顔付からいってオス、オスと推定しています。さて結果はいかに……

（飼育課：宮下 実）

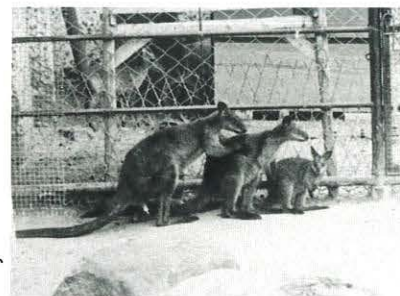


今年のヒナはオスかな?

動物園ニュース

☆ オグロワラビーの赤ちゃん、お目見え!

6月頃から母親の袋の中に入っているのが確認されていたオグロワラビーの赤ちゃんは、8月上旬頃からやっと袋の外にも出るようになり、母親のまわりを活発に飛びまわるようになってきました。オグロワラビーは昨年暮にも1頭誕生しており、これが2番目の赤ちゃんです。



☆ ショウジョウトキのヒナ、順調に成育

去る6月15日にふ化したショウジョウトキのヒナは、その後の成育も順調で、1ヶ月日には自力で餌も食べるようになってきました。今年は3羽ふ化した内、人工育雛した2羽がうまく育たず、母鳥につけた1羽が成功し



☆ キョンの出産

7月14日、キョンが1頭生まれました。昨年2頭誕生しており、それに続く3頭目のおめでたです。赤ちゃんは岩かけや小屋の後にいつもかくれているので、その姿はなかなか見れませんが、もう少したてば入園者の方々の前にもそのかわいい姿を見せてくれることでしょう。

☆ リスザル誕生

7月31日、リスザルが1頭生まれました。過去2回誕生したのはポリビアリスザルでしたが、今回は父親がポリビアリスザル、母親はコモンリスザルで亜種間雑種になります。母ザルのフーちゃんは初めての出産ですが、背中に赤ちゃんを背おってじょうずに世話をしています。



☆ バカの入園

バカは中南米に分布する齧歯目の中でも大型には

くらしを彩るショッピング

近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ
大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

獣医室から 22

オスかな?.....それともメス??

動物園において動物を飼育・展示していくことは一つの基本ですが、それらの動物をいかにして繁殖させるかということも大切なことです。それには飼育環境を整えてやることはもちろんですが、似合いのカップルを作るということも必要です。そのためにはオス・メスの判別がまず必要になるわけですが、動物によっては外見上オス・メスの分りにくいものもあります。哺乳類の場合、生殖器、二次性徴などからオス・メスの判別は容易ですが、一部判別のむずかしい動物もあります。

鳥類では外見の色彩がオスとメスでは全く異なる場合は判別しやすいのですが、全部がそういうわけでもありません。ハ虫類はオス・メス全く同型のものも多く、外見上の判別は非常にむずかしいといえるでしょう。今回の「獣医室から」は、この鳥類のオス・メスの見分け方について話をしてみましょう。

① 外見上、オス・メスの色彩の異なるもの

一番目につきやすいのはキジの仲間です。この仲間はオスは色彩に富んだ羽色をしており、メスは茶褐色の地味な色をしているものが多いのです。オスが赤、青、黄、緑などの彩かな羽色をしているのはメスをひきつけるためのディスプレイにかかせませんし、メスの地味な羽色は地面で抱卵する際の保護色として必要です。しかしキジの仲間でもカケイのように同色のものもあり、又、グアンの類も見分けがつきにくいようです。カモの仲間もオシドリやマガモのようにオスとメスで色彩の明かに異なるものが多いようです。私がカモの仲間 128種を調べたと



ス)など、一見、雌雄の判別がつきにくいようでもどこかに区別のポイントがある鳥の場合の我々も頭を悩まさずに大助かりです。二次性徴も判別の一つのポイントで、ニワトリのトサカなどはその代表といえるでしょう。

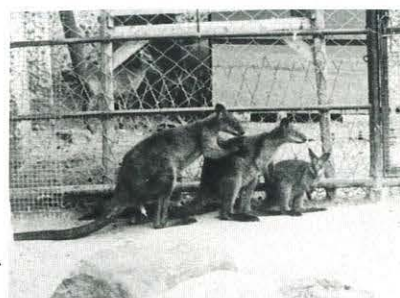
③ 同色、同型のもの

ペンギン、ツル、フラミンゴ、コウノトリ、ペリカン、ワシ、フクロウ……こういった仲間は雌雄の区別点がなく我々を常に悩ませます。しかし完全でないにしても判別方法はいろいろあります。例えば多少の体格のちがい、肢の各部の長さ、嘴の大きさ……これは比べる個体や記録があればよいのですが、なければ全く比較のしようもなく、又、個体の老若、栄養状態によっても差がでるため完全とは言いきれません。次に鳴声による区別、例えばツルでは鳴き

動物園ニュース

☆ オグロワラビーの赤ちゃん、お目見え!

6月頃から母親の袋の中に入っているのが確認されていたオグロワラビーの赤ちゃんは、8月上旬頃



からやっと袋の外にも出るようになり、母親のまわりを活発に飛びまわるようになってきました。オグロワラビーは昨年暮にも1頭誕生しており、これが2番目の赤ちゃんです。

☆ ショウジョウトキのヒナ、順調に成育

去る6月15日にふ化したショウジョウトキのヒナは、その後の成育も順調で、1ヶ月目には自力で餌も食べるようになってきました。今年は3羽ふ化した内、人工で育てるかどうかは一つの課題といえるでしょう。なおトキ類の繁殖成育は当園では初めての事です。



☆ 人工哺育で育つダマシカ

先月号でもお知らせしたように、母親の急死のために人工哺育で育てているダマシカの赤ちゃんは順調に成育しています。ミルクの濃度がうまくあわなかったために続いてきた下痢もどうにかおさまりましたが、後足の踵の関節が異常に曲折し歩行困難をきたしているため、副木固定して治療中です。生後1ヶ月目からは干草も少し食べ始めており、離乳ももう間近です。



☆ キョンの出産

7月14日、キョンが1頭生まれました。昨年2頭誕生しており、それに続く3頭目のおめでたです。赤ちゃんは岩かげや小屋の後にいつもかくれているので、その姿はなかなか見れませんが、もう少したてば入園者の方々の前にもそのかわいい姿を見せてくれることでしょう。

☆ リスザル誕生

7月31日、リスザルが1頭生まれました。過去2回誕生したのはボリビアリスザルでしたが、今回は父親がボリビアリスザル、母親はコモンリスザルで亜種間雑種になります。母ザルのフーちゃんは初めての出産ですが、背中に赤ちゃんを背おってじょうずに世話をしています。



☆ バカの入園

バカは中南米に分布する齧歯目の中でも大型にはいる動物で、日本では今まで当園に1頭だけしかいませんでしたが、7月30日、もう1頭新たに入りましました。近々もう1頭入る予定ですが、この珍しい動物を早く飼育環境にならして繁殖させたいものです。

☆ 第8回定例飼育研究会開催

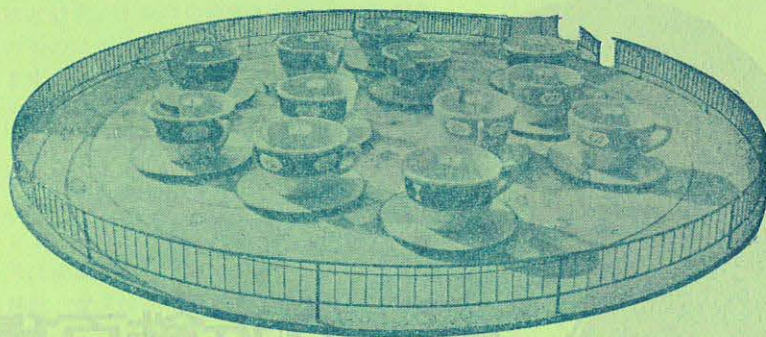
8月24日、定例の飼育研究会が開かれました。今回は「ダマシカの人工哺育経過」(原田係員)、「近畿ブロック研究会の概略」(宮下獣医)の2題について報告がありました。

◎ お知らせ ◎

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。年内の休園日は下記の通りです。

9月17日、10月15日、11月19日、12月17日、12月29~31日(年末休園)
開園時間は9時半~5時で、4時半に切符売止めになります。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和54年9月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

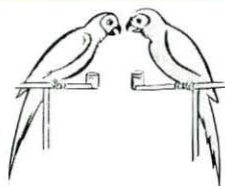
第15巻第9号(通巻169号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

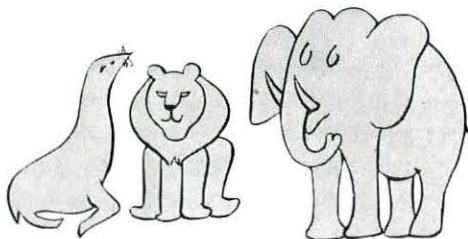
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地

電話(078)221-8195・221-1517
電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイナップル・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登